

# 文化財ニュース いわき

第 54 号

平成 8 年 12 月 10 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市中央台立いわき公園内

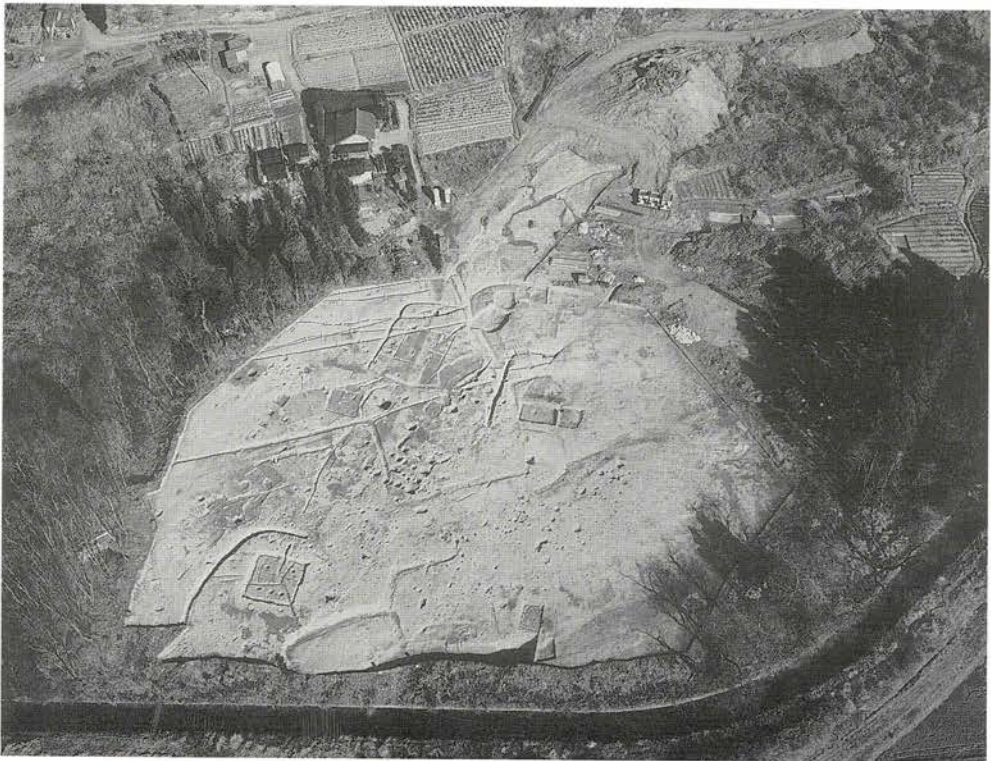
TEL 0246(29)0391

## 大型建物跡が見つかった奈良時代の集落

—— 大谷遺跡の発掘調査 ——

いわき市平中平窪にあります<sup>おおや</sup>大谷遺跡の発掘調査は、常磐自動車道の四倉までの延伸工事に伴うもので、平成 7 年度から実施してきました。

これまでの調査では、奈良時代を中心とした集落跡が見つかっています。特に奈良時代に属する<sup>ほったてばしらたてものあと</sup>掘立柱建物跡・<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>大型竪穴住居跡・<sup>さくれつあと</sup>柵列跡などの<sup>いこう</sup>遺構の発見と<sup>えんめんけん</sup>円面硯（すずり）や<sup>ぼくしよどき</sup>墨書土器（<sup>すみ</sup>墨で文字の書かれた土器）、<sup>ふるがわら</sup>多量の古瓦や<sup>す</sup>須恵器<sup>えき</sup>の出土は、大谷遺跡が一般の集落と異なる姿を示しています。



大谷遺跡の全景（平成 7 年度撮影）



一辺が 6.5m 前後の第 6 号竪穴住居跡



倉庫などに使われた第 2 号掘立柱建物跡

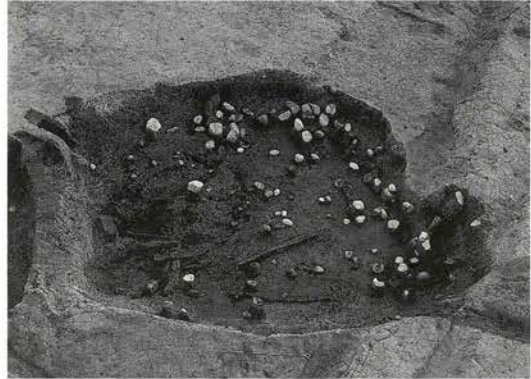
## 大谷遺跡の主な遺構

**竪穴住居跡** 竪穴住居跡は、16棟が見つかっています。一辺が7～8m前後の大型の住居跡が多く、その外には深い溝が巡っています。大型住居跡とは対照的に、一辺が3mの当時の一般的な竪穴住居跡も数棟あります。

**掘立柱建物跡** 掘立柱建物跡は、現在までに8棟見つかっています。その多くは、2間3間の<sup>たかゆかしき</sup>高床式の建物で、

米などを貯蔵する倉庫ではないかと考えられます。左上の写真は、柱の跡に人が立っている様子です。

**第30号土坑** <sup>どこう</sup>土坑は、たくさん見つかりました。特に右上の写真の土坑は、壊れずに残っていた土器や次のページにある墨書土器がたくさん出土しました。何か特別な意味があったのかと思います。



**第15号土坑（井戸跡）** 井戸跡は、この1基のみです。直径が約3m、深さが約3m弱ありました。右中の写真は、井戸の底の部分で、須恵器や木製の皿が見えます。



**第77号溝跡** 調査区の南西隅を約50mにわたり北西から南東に向かって延びる幅約4m、深さ2.5mの大きな溝跡か堀跡が見つかりました。古代や中世の<sup>ぼうぎょ</sup>防御の堀か、江戸時代の<sup>ようすいぼり</sup>用水堀か検討中です。



### 硯（すずり）と土器の底に書かれた文字

第30号土坑からは、墨で文字の書かれた須恵器が出土しました。一種類は楷書で「国」と、もう一つは草書で旧字体の「國」です。また別の遺構からは、

丸い墨をする硯に台を付けた円面硯と土器の底を利用した硯が出ています。



「国」の文字	写真 説明
「國」の文字	円面硯
「國」の文字	てんようけん 転用硯



とじておきましょう。

----- 大谷遺跡現地説明会の案内 -----

平成8年12月22日（日）午後1時から（小雨決行） 現地事務所 tel 23-7959